

平成27年6月19日(金)
文化財課
担当者 安(やす)
内線 5625
直通 225-1844

国史跡の指定及び国重要文化的景観の選定について

- 1 国の文化審議会（会長 宮田 亮平）は、平成27年6月19日(金)に、
かえつくにぎかいしろあとぐん
加越国境城跡群及び道（金沢市、富山県小矢部市）を国の史跡に指定し、
おおざわ かみおおざわ ま がきしゅうらくけいかん
大沢・上大沢の間垣集落景観（輪島市）を国の重要文化的景観に選定する
よう、文部科学大臣に答申した。
- 2 今回の答申どおり指定・選定されれば、県内の国指定史跡は26件、
国選定重要文化的景観は2件となる。

か え つ く に ぎ か い し ろ あ と ぐ ん
「加越国境城跡群及び道」

- 1 名 称 加越国境城跡群及び道
きりやまじょうあと
切山城跡
まつねじょうあと
松根城跡
おはらごえ
小原越
- 2 所在地 石川県金沢市松根町レ5番外 102筆等
富山県小矢部市内山字天44番 1筆等
- 3 指定面積 116, 131.04㎡
(金沢市114,800.37㎡、小矢部市1,330.67㎡)
- 4 所有者 金沢市、小矢部市、個人

5 概 要

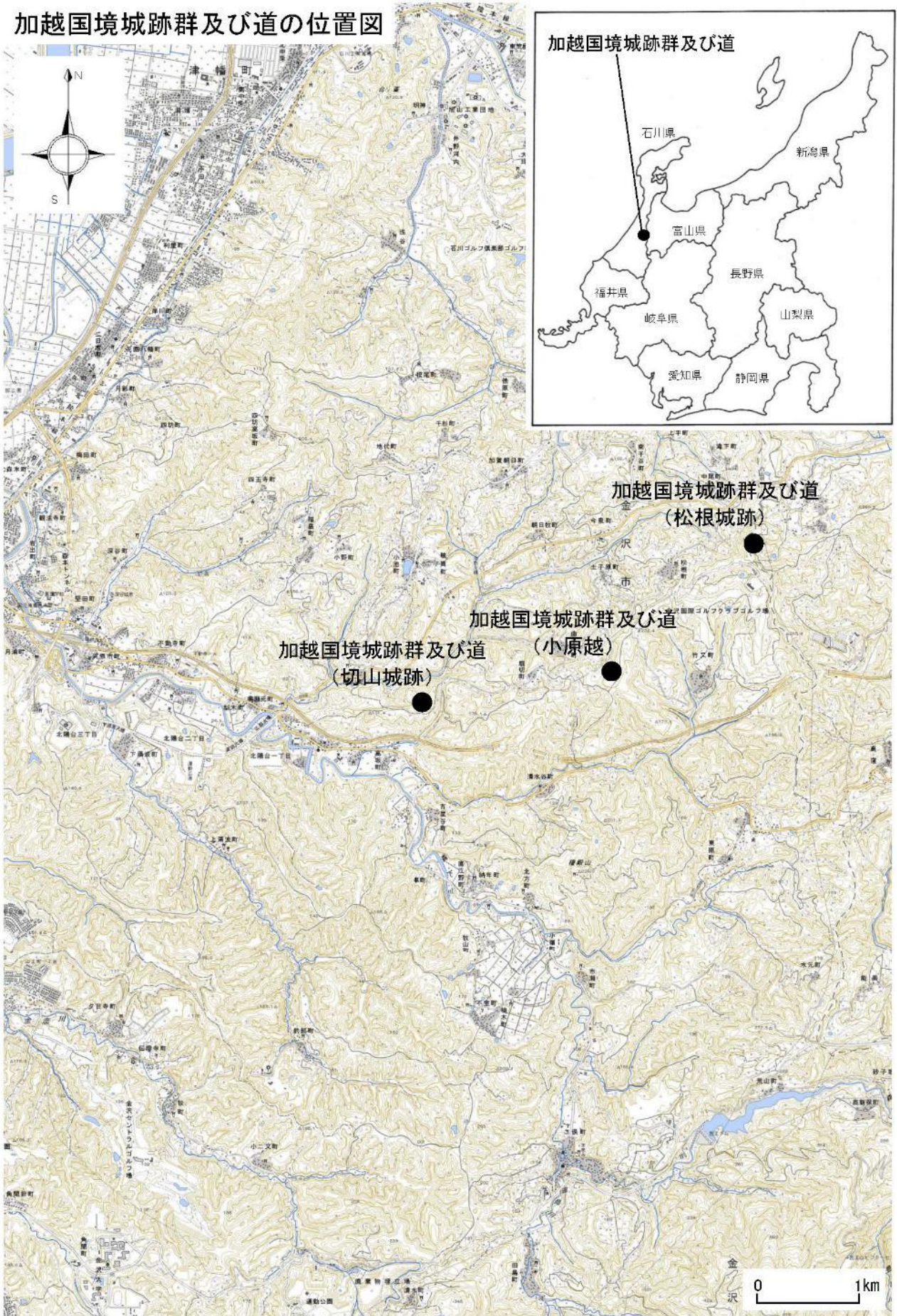
加越国境城跡群及び道は、北陸道から分岐する小原越や田近越などの脇街道に沿って築城され、天正12年(1584)の小牧・長久手の戦いから波及した加賀前田方と越中佐々方との攻防の舞台となった城跡群と、道(街道)から構成される。今回は、小原越と、そこに沿う切山城跡及び松根城跡を対象にする。

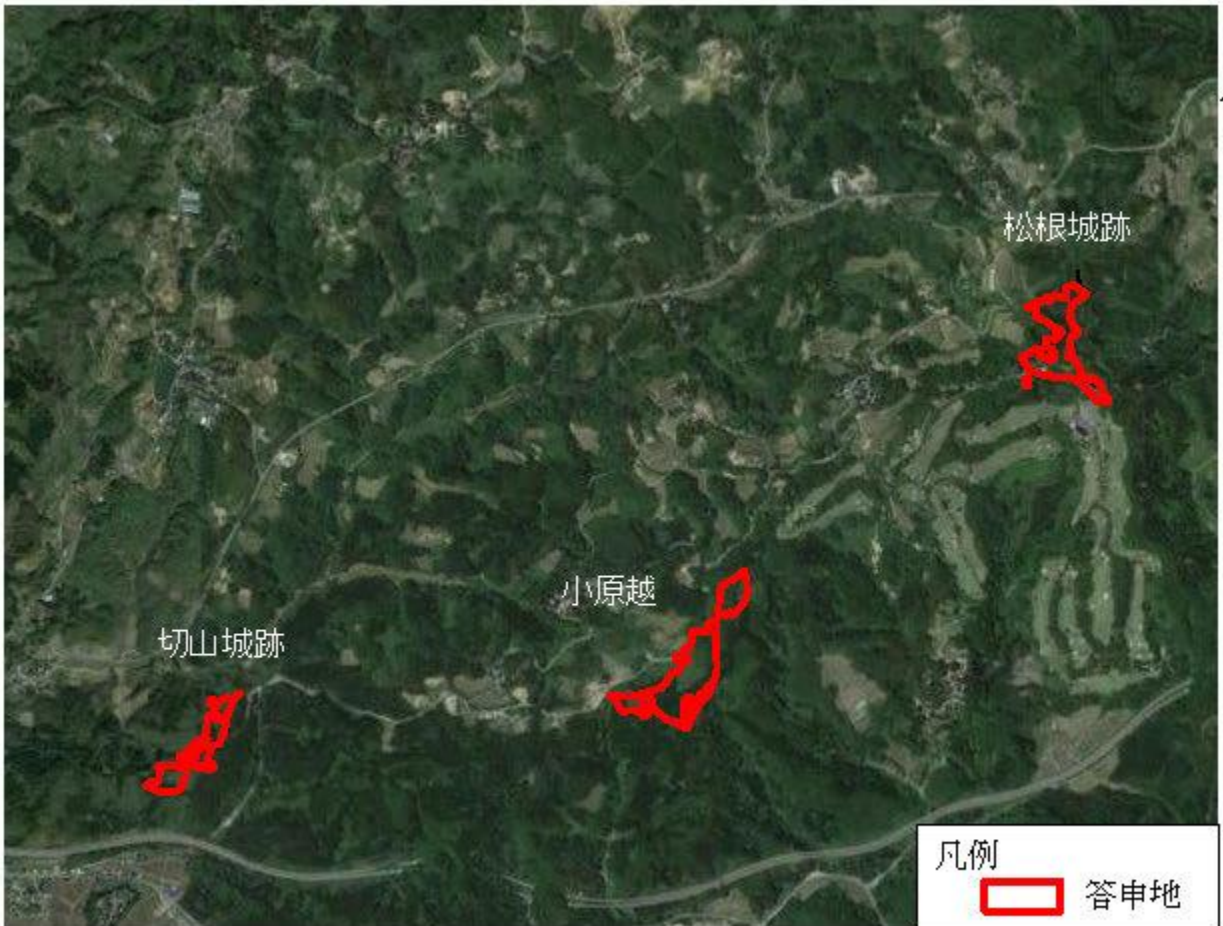
切山城跡は、越中側に大きな堀を設けていることから、佐々方に備えた前田方の城である可能性が高く、逆に松根城跡は加賀側に大きな堀が認められることから、佐々方の城と考えられる。

両城跡の年代は、構造と出土遺物、文献史料などで、天正12・13年にほぼ限られること、松根城跡の堀によって小原越が切断されていることが確認できており、城が街道を戦時封鎖していることを遺構で確認できた初めての事例といえ、城郭史研究における城と道の関係に新たな視点を示すと共に、当時の加越国境における緊迫した状況を伝える遺跡と言える。

これらの遺跡は広範囲に分布しているが、相互に関連し合っており、それぞれの文化財的価値を高めるために必要な要素であることから、一体で指定を行うことで、保護と活用に万全を期すものである。

加越国境城跡群及び道の位置図





答申地遠景



切山城跡 調査状況(主郭東側の門跡)



松根城跡 調査状況(西端の大堀切跡)



小原越調査状況 道跡(切山城跡付近)

おおざわ かみおおざわ まがきしゅうらくけいかん
「大沢・上大沢の間垣集落景観」

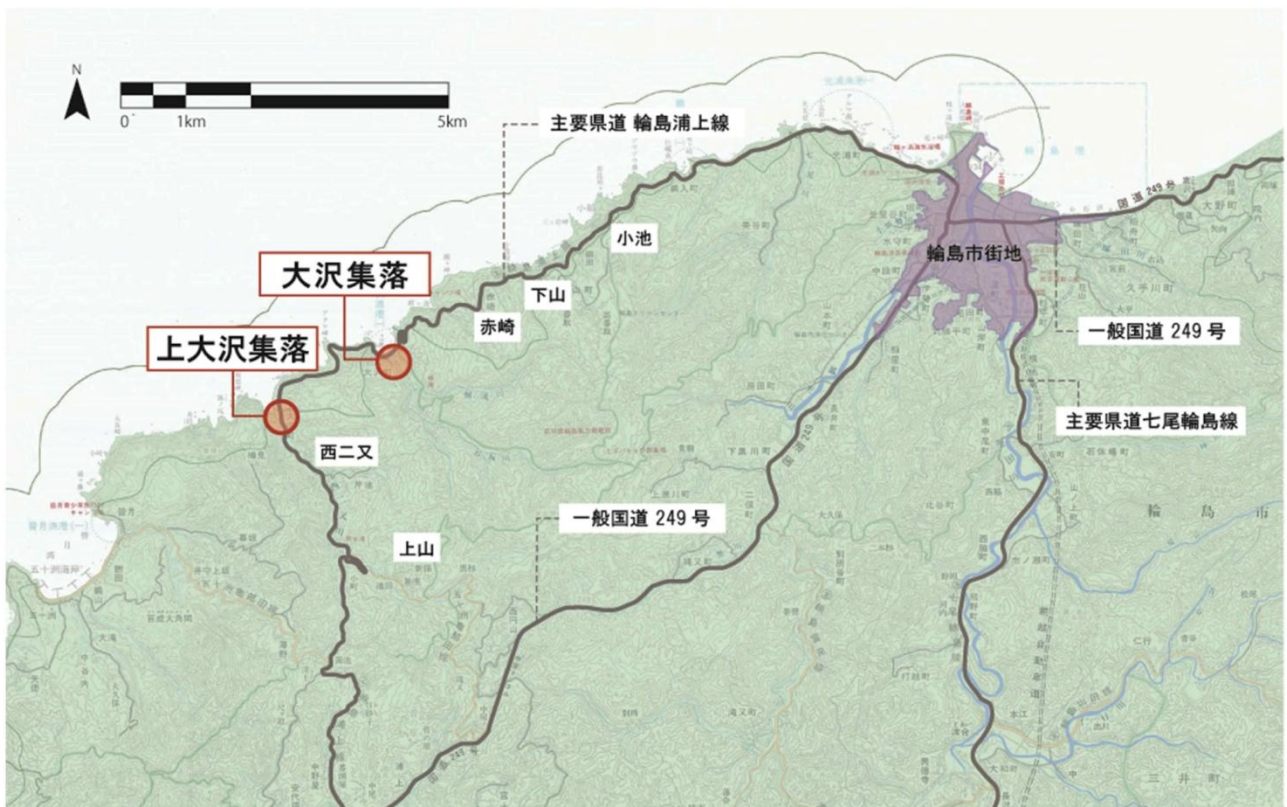
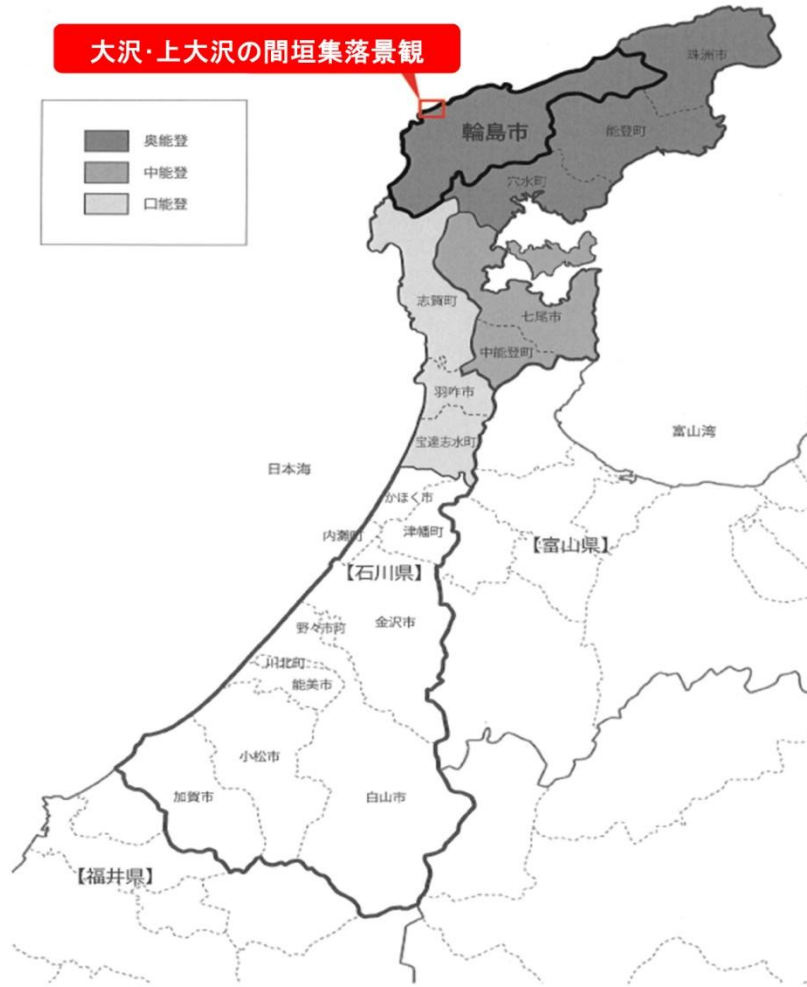
- 1 名 称 大沢・上大沢の間垣集落景観
- 2 所在地 輪島市大沢町及び輪島市上大沢町の全域
- 3 選定面積 1, 490. 8 h a
- 4 所有者 国・石川県・輪島市ほか

5 概 要

対象となる大沢町及び上大沢町は輪島市中心市街地から西へ約12キロメートル先に位置する。集落は山地と海に挟まれた低地を利用しており、後背の傾斜地に棚田や段畑を配し、日本海に開口する湾内には港や船だまりを構えている。中世の往来・産物の舟運を主な手段として発展してきた臨海荘園である志津良^{しつらのしょう}荘が起源とされ、そこに暮らす人々が厳しい自然環境に適応していく中で、里山・里海の資源を最大限有効に利用しながら長い時間をかけて固有の集落景観が作り出された。

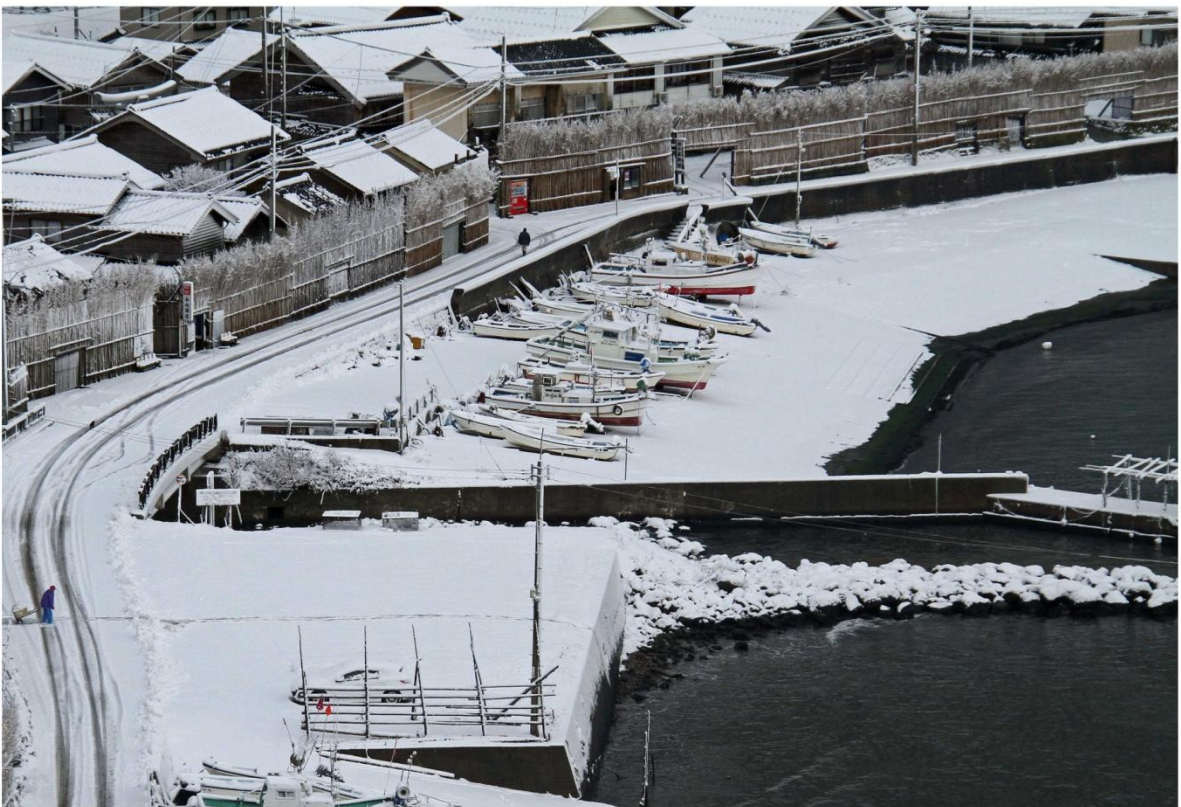
最も特筆されるのは、日本海特有の強い季節風から家屋を守るためにニガタケ等で「間垣」という高さ4～5mの垣根を作り、集落を囲い込んだ景観である。間垣で囲い込まれることによって住民の連帯感が高められており、切妻屋根・黒瓦葺・アテ下見板張り外壁でほぼ統一された民家の外観にも反映されている。能登半島外浦地域での生活様式を理解する上で欠くことのできない集落景観であり、かつては多くの集落に見られたが、現在も良い状態で残っているのは当該地域のみとなっており、重要である。

位置図





間垣



冬の大沢集落



間垣と石垣



上大沢集落